



問 役場庁舎の建替えについて

答 公共施設等の総合管理計画を策定し、方向性を出していきたい

鈴木 喜一郎 議員

問 老朽化が進む庁舎は、豪雨時には雨漏りがひどく、電気・機械設備に影響し、庁舎機能が麻痺するおそれがある。また、災害時には拠点となる。老朽化の現状と今後の対応方針は。

政策財務課長 2階建ての旧庁舎は、昭和38年に新築され、53年が経過。耐用年数は50年であり、既に3年が過ぎている。3階建ての新庁舎は、昭和58年に増築し、33年が経過。耐用年数は38年なので、あと5

年である。

町長 財源の確保が必要だが、先般の鬼怒川の決壊、常総市の例を教訓とし、検討しなければならない。建替えを進める場合でも、特に非常用自家発電、災害指令機能、避難空間の整備など、先進事例を視察し、公共施設等の総合管理計画を策定する中で方向性を出していきたい。

問 基金等と起債借入に係る実質公債費比率の現状と動向について。

政策財務課長 基金は平成26年度決算で約26億円となったが、今後IC周辺開発や関連する道路整備事業で大幅な減少が見込まれる。また、地方債残高は平成28年度末の見込みで97億円となるが、公共施設等の修繕や下水道施設の耐震補強工事など、借り入れが必要となるため、実質公債費比率は再び上昇することが想定される。

問 IC周辺開発に続く開発候補地を調整すべきでは

答 県との調整を進めていく

問 新4号国道沿線の商業施設誘致については、商圈が近い埼玉県などにおける大型商業施設やスーパーの立地が多く、厳しい状況ではないか。

都市建設課長 春日部市、幸手市、久喜市内等において商圈が競合している。道の駅を含め、集客力の高い核となる店舗との組合せのもとに企業誘致を進めていきたい。

町長 大型スーパーの誘致という住民の意向も十分に踏まえ進めていきたい。

問 企業立地ポテンシャルが非常に向上している。IC周辺地区に続く新たな開発候補地を調整すべきでは。

町長 IC周辺開発事業の確実性を担保させながら、新たな開発候補地について県との調整を進めていく。



県道西関宿・栗橋線の工事風景